

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から半年

11月8日、みなさんの思いが入った 東海第2原発 再稼働中止と 廃炉を求める署名 5万1,435筆(第1次集約分)を



「5万人の市民・県民の声ですよ。重く受け止めてもらいたい」
署名を受け取る原子力対策課課長に厳しい視線を送る小川仙月さん。

茨城県知事宛に提出してきました。

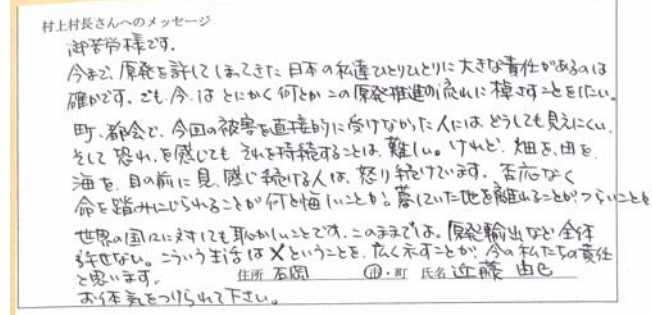
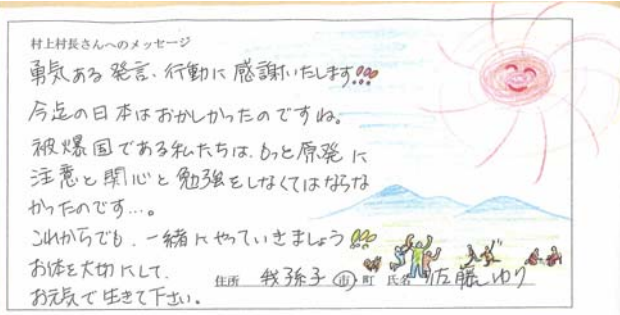
内、7,267筆が常総生協組合員・生産者が頑張って集めてくださった分です。ありがとうございました！

署名は来年4月まで継続して10万筆をめざします。生協でも年明けに、まだ署名されていない組合員さんへの呼びかけ、地域の人たちへの街頭署名活動を行う予定です。

【今週のニュース紙面】

- 1.東海第2原発廃炉署名県知事へ
- 2.東海村・村上村長に組合員メッセージお届け
- 3.龍ヶ崎組合員が中心になって市長に子供たちを守るための施策を要請
- 4.宮城石巻:高橋徳治商店さんへ 組合員からのお手紙
- 5.生協まつり報告(1)被災生産者編

(脱原発くらし見直し委員会より) できあがりしました！小児科医黒部先生のお話しとQ&A
放射能予防セミナー「黒部先生の放射能から子どもを守るお話し」今週配布しています！



みなさんの激励メッセージを村上村長にお届けしましたよ

帰りが夕方遅くなるという予告があったためか、組合員としてはたった2人の参加で残念でした。ここは、子育てなどの役目を終えたおばあちゃん組の出番でしょうか。



まず県庁へ。東海第二原発の再稼働中止と廃炉の要請文、各団体で集めた署名、総計5万1,435筆を県に渡すセレモニーに参加。知事も副知事も姿を見せず、原子力安全対策課課長大塚氏が無感動、無表情な顔で5万余筆の署名を受け取るという県側の軽い対応に憤慨しながら、私たちは組合員からの励ましの文を村上村長にお渡しすべく、東海村に向かいました。

「東海第二原発の廃炉を」という勇気ある決断をされた村上村長は、静かな表情で私たちも迎えてくださいました。

激励文や生協としての決意文を小冊子にまとめたものを村井理事長から受け取られた村上村長さん、「元気づけられます。」と。受け取った小冊子を大事そうになでておられました。

しばらく村長さんと懇談。とつとつと話をされる村長さんに、事の難しさを感じたことでした。村上村長さんのもとは、たくさんの情報が入

り、判断のための資料もたくさん集まります。しかし東海村と隣接する他の地域には、ほとんど情報が入っていないと言うことでした。

取手で、柏で、竜ヶ崎で、牛久で、子供たちを放射能汚染から守ってやらなければと学校の運動場から放射能汚染のひどい土を除去して貰おうと、行政に働きかけているお母さん方の活動等何も伝わっていないと言うことでした。

これだけはなれている福島原発事故でも、土も、砂場も、野菜も放射能で汚染してしまうのですから、もっと近いところにある東海原発に事故がおこったらどうなることか。

東海原発を廃炉にするためには激励だけではなく、常総生協関連で把握された様々の被害をもっと周辺地区に知らせていく手段が必要があると思って、帰ってきたことでした。

つくば市 木村

【龍ヶ崎のお母さんたちも「放射能から子供たちを守って」市長に要請】

龍ヶ崎市でもお母さんたちが「放射能から子どもを守ろう@龍ヶ崎」を立ち上げ、学校の放射線量や土壌の放射能濃度を自らの手で測り、そのデータを持って11/4、対策を市長に要請。詳しくは次週のニュースで紹介します。



市長に要請書を手渡す組合員。会場には子ども連れの市民も。

11/27(日)には市民団体と連携して小川仙月さんの講演会(松葉公民館 13:00~)も開催し、原発についてもみんなで考えます。

【11/8 茨城県知事宛 東海第2原発再稼働中止と廃炉の要請署名提出】
「原発事故、放射能汚染はもうこいごり！東海第2原発の廃炉を！」
県内外の5万筆、市民の声。

しかし、県知事不在。広報広聴課・原子力安全対策課課長が応対。
 その答は「参考にします」とだけ。

**県民・市民の声をもっと広げ、
 茨城県知事を包囲しよう！**



県知事不在。副知事も出てこない。広報広聴課と原子力安全対策課課長。



呼びかけ人の相沢さんが司会進行



要請文を読み上げる茨大名誉教授

3ヶ月で5万筆。7/10から東海村の相沢さんらの呼びかけで署名実行委員会によって始まった「東海第2原発再稼働中止・廃炉要請署名」。常総生協組合員が頑張って集めた7,267筆もこの中に入っている。

住民側が申し込んだ日程とは言え、県民・市民5万人の声を重ねた署名。県知事は？「・・・所用で」。副知事は？「・・・」。あなたは誰ですか？「原子力安全対策課の・・・」。聞こえない。会場は緊張に包まれた。

茨城大学の11人の名誉教授有志も名を連ねて下さり、田村名誉教授が要請文を読み上げ、手渡す。

続いて、先日常総生協でも講演して頂いた小川仙月さんが厚く綴じ重ねられた署名簿を我が子のように手渡す(表紙写真)。優しい目が一瞬、担当者に鋭い視線を注ぐ。

代理で受け取った原子力安全対策課・大塚課長は「参考にさせていただきます」とだけ。皆「え？」

生協の方からも、少し質問させて頂きました。

(生協)この署名要請をどう受け止めて、どう参考にされたのか、要請を出した側に説明を頂けないか？県知事と話し合う機会を作って頂きたい。

(県)「私の方は今日は署名簿を頂くということだけ。そこまでのことはこの場ではお答えできません」

(相沢さん)通常は署名簿を受け取ったあとはどのように扱われるのですか？

(県)「頂いた署名につきましては、こういうご意見がありましたということで県の方で参考にさせていただきます。」

要請書

茨城県知事 橋本 昌 殿

(要請内容) 東海第2原発の再稼働中止と廃炉を要請します。

(主旨)

今回の福島第一原発の大惨事は地震による「原発の安全神話」の崩壊でした。東海第2原発も冷却機能の一部が破綻し、あわや福島第一原発と同じ運命をたどる一手手前の状況でした。原発は一たび事故が発生すると制御できないものである事が明確になりました。安全に絶対はありません。

福島第一原発の事故は取東の見通しも立たず、事故の解析も出来ていません。また地震・津波に対する原発への根本的な安全対策も立てられておりません。過酷事故に対する国、電力会社の対策はこの地震国の日本にあっては無策と言わざるをえません。この状況での東海第2原発の再稼働は絶対に認められません。

使用済核燃料の処理方法も未解決のまま、次の世代に処理できぬ放射性物質を残したままでは無責任ではないでしょうか。

私たちは、地方を不幸にしてまでの経済発展は理性的にコントロールしなければならないと思います。これ以上、原発事故により放射性物質に汚染された大地を増やすわけにはいきません。

大事故が起これば茨城県だけでなくとどまらず、広く関東にも甚大な被害をもたらす東海第2原発の廃炉を求めます。



県広報「ひばり」で原子力安全対策課は「東海第2原発は冷却システムは順調に動いている」と。無表情。



(生協)要請に対する県知事のご返事は頂けないのですか？

(県)「通常は返事とかそういうものはいたしておりません。受け取るときに参考にさせていただきますと言うだけです」

(生協)通常はしないということではなく、この案件についてはきちんと説明を頂きたい。ぜひお願いしたい。よろしいか？

(相沢さん)この署名簿がどのように取り扱われていくのかということとは私たちにとって重要な関心事です。極めて重みのある署名簿ですので、きちんと扱って頂きたいという願いがあります。今日この場で、というのが無理であっても、2次、3次の署名集約をして提出し重ねて廃炉を要請しますので、なんらかの機会を設けて明らかにして頂きたい。

【11/8 東海村・村上村長さんへ組合員からのメッセージお届け】

「市民の方の声がいちばん力になるのです。」

「茨城県南部や千葉東葛地区がたいへんな状況にあることや、放射能へのお母さんたちの心配や行動が、まだ水戸や東海村周辺にまで伝わっていません」

「ぜひ、水戸や東海周辺市町の長や市民に放射能への危機感を伝えて頂きたい」



組合員からのメッセージを村上村長さんに手渡す理事長

県知事宛要請をしたあと、東海村へ。

東海村の村上村長さんは、事前の申し入れに、予定を変更して私たちと会う約束をしてくれ、当日迎えてくれました。

「再稼働には私がウンと言わない。事故時に村民を安全に避難させる計画立案は現実的に困難です。東海村だけでなく、半径30kmには水戸市を含む94万人もの人々が住んでいるのです。どこにどう逃げるといいのでしょうか。すでに国の立地基準から外れている。

しかし県知事には強権がある。国の原発防災域の拡大で安全協定も拡大する予定で、県が周囲の市町村を巻き込み多数決で決まってしまう危険性があります。

県庁所在地の水戸を含む周囲の市町村は放射能の恐さがまだわかっていない。ここに書かれているような県南や千葉のみなさんの体験や食や子育てへの心配、活動をぜひ周辺自治体や市民に伝えて欲しい」「市民の声がいちばん



組合員からのメッセージを台紙に貼って本にしてお届けしました。

組合員からのメッセージを手に、1時間余りも面談(→)。



ごいっしょ下さった脱原発くらし見直し委員会の取手市の渡辺さん、つくば市の木村さんからの手紙を頂きましたので紹介します。

「原発は一枚の夢だった。原子力村・東海村長村上運也様に面談することが出来ました。不忙の中、一時間にもわたりお話し下さいました。物静かな、やさしい口調、暖かいが伝わってきます。組合員からの村上村長への励まし、応援メッセージをお渡しし、お話し、応援メッセージは、市民の方々の声が一番の力になるのだ。とおっしゃれました。東海第2原発も全電源喪失の寸前であり、津波が来ると、高さの低い、海水は防波堤を越へ、すべての冷却機能が失われ、このままでは、しかしながら東海村民の脱原発に討つ意識は、原発の悪夢を受け止めることもあり、推し、半々の状況がある。身命、取手方面で食に討つ心配が大きくなっていくこと、見えない放射能の恐怖、多くの人々に感じてもらい、ス回りの市町、村長にも御さかたの必要がある。そして、可なり茨城県知事の方が、絶大であること、原子力村長は是非多数決で決める方向にもっていくこと、来年の八月までには時間がある。是非とも再稼働停止から廃炉へと目指して行きたい。ということでした。もがこと立派な建設業の東海村役場をみると、まことの様子がわかって私達は意識改革のフロロチをしてくる効果的なのかなと思案しながら帰路につきました。二〇二二、土、八 渡辺